

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成30年12月13日 (2018.12.13)

【公開番号】特開2017-161287(P2017-161287A)
 【公開日】平成29年9月14日 (2017.9.14)
 【年通号数】公開・登録公報2017-035
 【出願番号】特願2016-44311(P2016-44311)
 【国際特許分類】

G 0 4 B 17/06 (2006.01)

G 0 4 B 17/26 (2006.01)

【 F I 】

G 0 4 B 17/06 Z

G 0 4 B 17/26

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月1日 (2018.11.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

テン真が挿入される接続部品と、前記接続部品と接続されるアームと、前記アームと接続されるリムと、を有するテン輪であって、

前記アーム及び前記リムは、それぞれ第 1 の材料によって形成され、

前記リムは、前記第 1 の材料が、前記第 1 の材料よりも比重の大きい第 2 の材料によって覆われている

ことを特徴とするテン輪。

【請求項 2】

前記第 2 の材料は、前記第 1 の材料よりも弾性率が高い

ことを特徴とする請求項 1 に記載のテン輪。

【請求項 3】

前記第 2 の材料は、金属である

ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のテン輪。

【請求項 4】

前記第 1 の材料は、合成樹脂である

ことを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載のテン輪。

【請求項 5】

前記接続部品は、前記第 1 の材料と異なる材料で覆われている

ことを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載のテン輪。

【請求項 6】

前記接続部品、前記アーム及び前記リムは、一体に形成される

ことを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載のテン輪。

【請求項 7】

前記第 2 の材料は、前記リムの外周に沿って複数に分割されて配置されている

ことを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載のテン輪。

【請求項 8】

前記第 1 の材料と前記第 2 の材料との間に、中間層を有する

ことを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載のテン輪。

【請求項 9】

前記中間層は、前記第 1 の材料及び前記第 2 の材料のいずれとも異なることを特徴とする請求項 8 に記載のテン輪。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

テン真が挿入される接続部品と、接続部品と接続されるアームと、アームと接続されるリムと、を有するテン輪であって、アーム及びリムは、それぞれ第 1 の材料によって形成され、リムは、第 1 の材料が、第 1 の材料よりも比重の大きい第 2 の材料によって覆われていることを特徴とする。

また、第 2 の材料は、金属であってもよく、第 1 の材料は、合成樹脂であってもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、第 2 の材料は、第 1 の材料よりも弾性率が高くてもよい。

また、接続部品は、第 1 の材料と異なる材料で覆われていてもよい。

さらに、接続部品、アーム及びリムは、一体に形成されていてもよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

また、第 2 の材料は、前記リムの外周に沿って複数に分割されて配置されていてもよい

。

また、第 1 の材料と前記第 2 の材料との間に、中間層を有していてもよい。

さらに、中間層は、第 1 の材料及び第 2 の材料のいずれとも異なってもよい。